

広島市植物公園

見どころ案内

オジギソウ (マメ科)

葉が接触、熱、風、振動などによって先端から徐々に閉じて行き、夜も葉を閉じ眠っているように見えます。ことからネムリグサとも呼ばれています。

ショクダイオオコンニヤク (サトイモ科)

インドネシア スマトラ島の熱帯雨林に自生しています。花の形が燭台(蠟燭を灯す台)に似ていることから名前がつけました。当園では花は咲いたことはありませんが、大きな葉を茂らせています。

ゾウコンニヤク (サトイモ科)

東南アジア～オーストラリア原産。花は終わっていますが、高さ・幅とも2mほどの巨大な葉を繁らせています。

大温室改修のため休館中

リニューアルオープン
は平成29年秋ごろです。
(予定)

巨大ハンキングバスケット

白いカラジウムを基調にして、ペンタス、オカメツタを組み合わせ、夏バージョンに仕上げました。

日本ハンキングバスケット協会
ハンキングバスケットマスター作

水琴窟と苔庭

茶室前の水琴窟と13種類の苔を展示しています。

パイナップルの実

(パイナップル科)
熱帯アメリカ原産のパイナップルが実をつけています。

ナリウツギと夏の植物展

花の少ないこの季節に咲くアジサイの仲間を展示。ほかに見ごろの夏咲きの植物を展示します。屋外展示場にて開催中。

キバナコスモス

(キク科)
メキシコ原産で標高1600m以下の地域に自生しています。日本では広く園芸種として栽培されています。咲き始めています。

アリストロキア・ギガンティア

(ウマノスズクサ科)
世界の熱帯～温帯に300種類以上が分布します。生肉のような花が咲き始めています。

熱帯スイレン

(スイレン科)
温帯スイレンには無い青や紫色があり、エキゾチックな雰囲気を出しています。鉢で展示中です。

アサガオのカーテン

(ヒルガオ科)
ツルが伸び、最上部まで到達しつつあります。
ノアサガオの1品種「オーシャンブルー」です。

冬虫夏草展

6/17(土)～8/17(木)
中国で古く「冬は虫として動き回り、やがて夏になれば草(キノコ)に変わる不思議な生き物」と思われていた、昆虫やクモなどに寄生するキノコの仲間の標本や写真を展示しています。

